

本時の公開研究会のまとめ

I 趣旨説明 ～本研究の概要と現時点での到達点～

1 研究目的

2 部活動の持続可能性

生徒，教員，部そのものの存立，学校にこだわらない活動，部活動研究

3 研究視点

特別活動， ボランティア学習， シティズンシップ教育
礼法教育・道徳教育， 教育史・学校文化， 運動部活動・スポーツ科学
文化部活動・若者文化， 働き方改革， 地域部活動

4 研究内容

- ・訪問校調査から持続可能性の抽出
- ・部活動研究の俯瞰
- ・上記を踏まえた持続可能な部活動のあり方を総合的に分析・考察

II 訪問校調査 群馬県立富岡高等学校 吹奏楽部

<持続可能要素>

教師の関わり方，技術指導，保護者との関係・活動費用
活動時間の工夫，生徒主体，コンクール，卒業後の継続

III 訪問校調査 全体

<持続可能要素>

技術的指導者の確保・配置
教育課程との関連の明確化
生徒にとっての部活動の最適化

IV スポーツ科学の視点からみた持続可能性

生涯スポーツ，発達段階，地域民間スポーツクラブの視点

V 特別活動の視点から見た持続可能性

クラブ活動を持続可能にする2つの要素

意思決定，合意形成

持続可能な活動は意欲の継続に支えられる

FIDS (フィッズ)

Feel-Imagine-Do-Share

VI 質疑応答

- ・総合型地域スポーツクラブの指導者派遣
- ・持続可能な要素：環境づくりについて研究的方法論から確立するのか
- ・部活動支援の人材に必要な資質・能力

VII 神谷氏より

自治活動…学校教育（特別活動など）との相性の良さ

その一方で，社会教育との関わりも視野に入れる必要あり

地域の人が関わる意味，地域住民・保護者の主体者形成・自己実現

- ・子どもの部活動には「人」「お金」がかかる
- ・部活動の教育内容（自治と社交）をどのように保障するかが大切

VIII 八重樫氏より

部活動改革はどこを目指しているのか

学校現場では部活動問題は労働問題としてクローズアップ

部活動とは何なのか，何を指すのか，本質的な問いが必要

研究的・分析的な助言が必要

学校が置き去りにされているのではないか…学校経営の視点